

## 資料1-2 (解説)「日本語教育の参考枠」レベル感ワークショップ

### ワーク1 「全体的な尺度」のレベルを把握する

「日本語教育の参考枠」で示す指標の中で最も包括的な指標は「全体的な尺度」です。これは日本語能力の熟達度について、言語活動（技能）を問わずA1～C2までの6つのレベルに分けて示したものです。まず、「全体的な尺度」の6つのレベルの特徴を把握してみましょう。

- \* CEFR日本語版「3.6 共通参考レベルの内容の一貫性（34-36ページ）」を読み、レベルの特徴を理解してください。<https://www.goethe.de/ins/jp/ja/spr/unt/kum/ger.html>
- \* 下の文がA1～C2のどのレベルにあたるのかについて考え、（ ）にレベルを記入しましょう。
- \* 自分がなぜそのレベルであると判断したのかについて、説明を考えておいてください。

#### レベル：( B1 )

仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、大抵の事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のあるテクストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べことができる。

#### レベル：( A1 )

具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はつきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

#### レベル：( C2 )

聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流ちょうかつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。

#### レベル：( B2 )

自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテクストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテクストを作ることができ、様々な選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。

#### レベル：( A2 )

ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近くで日常の事柄についての情報交換に応じることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

#### レベル：( C1 )

いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテクストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えるに、流ちょうに、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりと構成の、詳細なテクストを作ることができる。その際テクストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法を使いこなせていることがうかがえる。

## ワーク2 「言語活動別の熟達度」から言語活動ごとのレベルを把握する

「全体的な尺度」で全体的なレベル感を掴んだら、次は「言語活動別の熟達度」で言語活動ごとのレベルを把握します。下の5つの言語活動ごとの言語能力記述文のレベルを記入してください。

活動	言語能力記述文	レベル
聞くこと	はっきりとゆっくり話してもらえば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	A 1
	仕事、学校、娯楽でふだん合うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	B 1
	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの)直接自分につながりのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	A 2
読むこと	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	B 2
	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	A 1
話すこと (やり取り)	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテクストなら理解できる。	B 1
	起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	
	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話しができる。通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。	A 2
	言葉を殊更探さずに流ちょうに自然に自己表現ができる。社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言に合わせることができる。	C 1
	流ちょうに自然に会話をすることができ、熟達した日本語話者と普通にやり取りができる。	B 2
話すこと (発表)	身近なコンテクスト(文脈・背景)の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。	
	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。	A 1
	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	A 2
	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	B 2
	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	A 1
書くこと	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語ることができる。	B 1
	意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。	
	物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。	
	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。	A 2
書くこと	短い個人的な手紙なら書くことができる: 例えば礼状など。	
	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。	A 1
	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテクストを書くことができる。	B 1
	私信で経験や印象を書くことができる。	

### ワーク3 「日本語教育の参照枠 Can do」のレベルを把握する

続いて「日本語教育の参照枠 Can do」のレベルを把握します。下の言語能力記述文のレベルを記入してください。自身の日本語能力や外国語能力、身近な学習者の日本語能力などを念頭に置きながら、作業を進めてください。A2、B1、B2は2レベルに分けられますが、まずはA1からC2までの6つのレベルで考えてみてください。

活動	言語能力記述文	レベル
聞くこと	ゆっくりとはっきりと話されれば、予測可能な日常の事柄に関する、 <b>短い録音の一節</b> を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	A2
	自分の <b>専門分野</b> での技術的な議論を含めて、共通語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。	B2.1
	<b>毎日やふだんの仕事上の話題</b> について、簡単な事実関係の情報を理解できる。もし、大体が <b>耳慣れた発音</b> で、 <b>明瞭</b> に話されていれば、一般的なメッセージも具体的な <b>詳細</b> も理解できる。	B1.2
	当人に向かって、 <b>丁寧</b> にゆっくりと話された <b>指示</b> なら理解できる。 <b>短い簡単な説明</b> なら理解できる。	A1
読むこと	主張のはっきりした論説的テクストの <b>主要な結論</b> を把握できる。	B1.2
	日常のよくある状況下で、簡単な掲示の中から <b>身近な名前や語、基本的な表現</b> が分かる。	A1
	専門用語の意味を確認するために <b>辞書</b> を使うことができれば、自分の <b>専門外</b> であっても <b>専門記事が理解</b> できる。	B2.2
	非常によく用いられる、日常的、若しくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、 <b>短い簡単なテクスト</b> が理解できる。	A2
話すこと（やり取り）	身近な状況での非公式の議論に <b>積極的に参加</b> し、コメントすること、 <b>視点をはっきり示す</b> こと、代替案を評価すること、仮説を立て、また他の仮説に対応することができる。	B2.1
	旅行や、バス、列車、タクシーなどの公共の交通機関についての簡単な情報を得ることができる。 <b>行き方</b> を聞いたり、 <b>教えて</b> たりすることができる。切符を買うことができる。	A2.1
	どこに行くか、何をしたいか、イベントをどのように準備するか（例：外出）などの、 <b>実際的な問題や問い合わせ</b> の解決について、 <b>自分の意見や反応</b> を相手に <b>理解させる</b> ことができる。	B1.1
	<b>時々繰り返しや言い換え</b> を求めることが許されるなら、自分に向けられた、 <b>身近な事柄</b> について、はっきりとした、共通語での話は大抵理解できる。	A2.2
	こちらの事情を理解してくれるような話し相手から、 <b>はっきりとゆっくりと、繰り返しを交えながら、直接自分に向けられた話</b> ならば、 <b>具体的で単純な必要性を満たすための日常の表現</b> を理解できる。	A1
話すこと（発表）	自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、 <b>明確で詳しく述べ</b> ることができる。	B2
	自分の <b>毎日の生活に直接関連のある話題</b> については、リハーサルして <b>短いプレゼンテーション</b> ができる。意見、計画、行動に対して、理由を挙げて <b>短く述べ</b> ることができる。	A2.2
	<b>事柄を直線的に並べ</b> ていって、比較的流ちょうに、簡単な語り、記述ができる。	B1
	<b>複雑な話題</b> について、明瞭かつ詳細な記述やプレゼンテーションができる。 <b>下位テーマをまとめたり、一定の要点を展開しながら、適当な結論に持つ</b> いたりすることができる。	C1
書くこと	直接必要なことの用件についての <b>短い、簡単なメモやメッセージ</b> を書くことができる。	A2
	いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある <b>専門分野の多様な話題</b> について <b>明瞭で詳細なテクスト</b> を書くことができる。	B2
	<b>単純につなぎ合わせたテクスト</b> で感情や反応を記述し、経験したことを書くことができる。	B1
	ホテルの予約用紙などに、数、日付、自分の名前、国籍、住所、年、生年月日、入国日などを書くことができる。	A1

## ワーク4 「生活 Can do」のレベルを把握する

最後に「生活 Can do」のレベルを把握します。下の言語能力記述文にレベルを記入してください。身近な学習者の日本語能力などを念頭に置きながら、作業を進めてみてください。その後、以下のことについて考えてみましょう。

- \* 「全体的な尺度」、「言語活動別の熟達度」で日本語能力の熟達度を評価するときに注意点について
- \* 「日本語教育の参照枠 Can do」と「生活 Can do」との違いについて
- \* 「言語活動別の熟達度」、能力 Can do、方略 Can do、テクスト Can do をどのように活用するかについて

活動	言語能力記述文	レベル
聞くこと	インフルエンザなど、最近流行している病気に関する <b>テレビニュース</b> などを見て、映像やテロップを頼りに、予防法や対処法など、 <b>主要な情報を理解する</b> ことができる。	B1
	自分に向かってゆっくりとはっきりと話されれば、「口を大きく開けてください」、「よく休んでください」、「薬を1日3回飲んでください」など、医者の <b>ごく簡単な指示</b> を聞いて、理解することができる。	A1
	好きなスポーツに関する <b>テレビニュース</b> などを見て、試合の勝敗や好きな選手の活躍など、内容を <b>大まかに理解する</b> ことができる。	A2
読むこと	イラストなどの手掛けりがあれば、街中や施設内にある「禁煙」「立入禁止」「撮影禁止」「工事中」「危険」などの <b>非常に短い注意書きや看板</b> を見て、警告されている内容を確認することができる。	A1
	現在関わっている業務に関する <b>簡単な新聞記事などを読んで、主要な情報を理解する</b> ことができる。	B1
	職場の壁やドアに掲示された <b>指示や規則などの短い簡単な説明</b> を読んで、禁止事項や注意事項など、 <b>いくつかの情報を理解する</b> ことができる。	A2
	専門用語の意味を確認するために辞書を使うことができれば、雇用契約書や労働条件通知書などを読んで、福利厚生や手当の内容を理解することができる。	B2
話すこと (やり取り)	友人に、これから <b>住みたいところやその理由</b> などについて、 <b>短い簡単な言葉でコメントや質問をしたり、答えたり</b> することができる。	A2
	職場の懇親会などで初めて会った人に話しかけ、 <b>趣味や仕事など身近な話題</b> について質問したり、質問にある程度詳しく答えたりして、会話を続けることができる。	B1
	飲食店に入ったとき、 <b>人数</b> と、 <b>喫煙席か禁煙席か</b> などの希望を店員に言うことができる。	A1
話すこと (発表)	不動産業者などでの住居探しの際、入居条件等について担当者に <b>詳細を確認し、差別的な入居資格など、納得のいかない点について、代案や譲歩案などを述べながら交渉する</b> ことができる。	B2
	自分が被害を受けた盜難などの予期しないトラブルについて、警察官や近所の人などに <b>順序立てて詳細に述べる</b> ことができる。	B1
	子供の学校行事などで他の保護者に、 <b>子供から聞いたクラスの様子や子供の家の様子</b> などを、 <b>短い簡単なことばで話す</b> ことができる。	A2
書くこと	見本があれば、はがきや封筒に、 <b>宛名や差出人の住所や名前</b> を書くことができる。	A1
	分からることについて質問することができれば、病院の受付で、問診票に名前や住所、体温を書いたり、「どんな症状か」「いつからか」などの選択式の <b>簡単な質問</b> に答えたりすることができる。	A2
	自分自身の長所や短所など、 <b>簡単な自己PR文</b> を就職のための提出書類に書くことができる。	B1